

---

## 関連施設

---

田上診療所

訪問リハビリステーション事業所／田上診療所

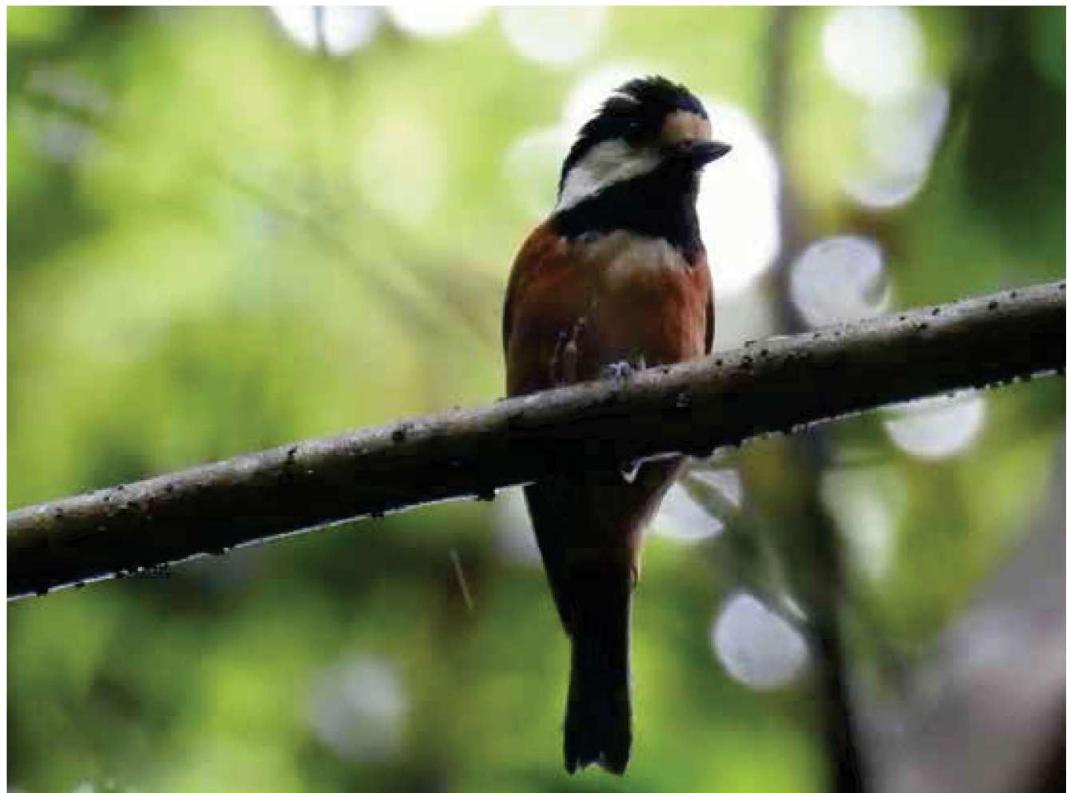
訪問看護ステーション 野の花

訪問リハビリステーション事業所／種子島医療センター

介護老人保健施設 わらび苑

院内保育所

---



## 関連施設

# 田上診療所

院長 岩元 二郎

### 田上診療所便り 2022年度の振り返り

2021年4月、田上診療所の4代目院長として就任した岩元です。就任時に院長の方針として業務改善、医療安全、院内連携、地域連携を4つの柱として運営に当たってきました。就任後丸2年経過しましたが、ここ数年島内の開業医の閉院が進む中、中種子町の病院は当院と中種子クリニック（徳洲会病院系列）と高岡医院の3院となっています。今後さらに医療機関の縮小化が予測される中、種子島医療センター（本院）と分院としての当院の存在価値がますます高まっていることを感じています。

かかりつけ医としての当院のメリットは、一般内科小児科と4つの専門外来を有していることです。循環器内科と皮膚科そして2022年度新たに新設された泌尿器科外来は基幹病院である本院の協力なくして成り立たない診療で、本院↔分院の循環型診療が奏功している好例といつてもよいでしょう。さらに整形外科（鹿児島大学整形外科より月2回土曜）の診療も行っています。また2021年11月から本院リハビリ部門の協力もあり訪問リハビリ事業がはじまり、セラピスト2名が当院に常駐するようになりました。経営にも貢献し、経常損益では黒字をもたらしてくれています。

これから課題は、入院やより専門性の高い診療が必要な場合の本院への紹介を含めた更なる連携強化です。電子カルテによる患者情報の共有化は最大のメリットです。今後病院の統廃合が進めば全島の医療機関どうしで同じ電子カルテを共有することで病診連携がよりスムースになることでしょう。そのような時代が来ることが待ち望まれます。

2023年1月をもって物療リハビリが職員（岩崎五月氏、長田眞里子氏）の離職に伴い閉鎖になりました。物療は筋骨格系の身体のマッサージがメインですが、何気ない会話で心まで癒されてきたのに閉鎖は残念という利用者の声もありました。この声を聴き、診療所は単なる診療の場だけでなく、癒やしの場でなければならないという思いを職員間で共有しました。赤ちゃんから超高齢者まで、もっと職員が種子島の方言で語りかけようということにしました。和顔愛語で「どわんじやちゅう～」「たいちえよかごたいろ～」「おおきんな～また来ちえくれーな～」子ども達や若年世代にも廻れゆく方言で語り掛け、高齢者には癒やしにもなるように和気あいあいの雰囲気で地域に根ざした医療ができるのも診療所ならではだと思います。

#### 田上診療所職員（2023年3月末時点 太字は常勤、敬称略）

- 看護師 政田育子（師長）、光都志子、秋田由紀代、峯下代美子、石堂いみ子、中崎真美
- 事務 古元康徳（事務長）、秋田幸子、大久保沙織、児島佑奈、立石鈴美
- リハビリ 内村寿夫（PT）、上原瑞生（PT）
- 医師 田上寛容（循環器科・毎週水午後）、瀬戸山充（皮膚科・毎週木）、中目康彦（泌尿器科・毎週水午前）、嶋田博文・堂込雅貴（整形外科・月2回）、森山瑞葵・井無田萌（小児科応援・月2回）、竹野孝一郎（内科）、**岩元二郎（小児科&内科）**

# 訪問リハビリテーション事業所 田上診療所 訪問リハビリテーション

リハビリテーション室 副主任 理学療法士 内村 寿夫

【令和4年度職員】(令和5年3月31日付)

リハビリテーション室

副主任 理学療法士 内村寿夫

リハビリテーション室

理学療法士 上原瑞生



【令和4年度 年間目標】

地域住民にとって田上診療所訪問

リハビリテーションが身近な存在となる

【活動】

①アンケートを実施し現状を知る

- ・訪問リハビリテーションに対してアンケート2回実施し現状や課題を把握

②田上診療所訪問リハビリテーションの認知度を上げる。

- ・訪問リハビリテーションのパンフレットを作成

- ・ホームページ作成

- ・訪問リハの内容や引き継ぎ方法などの資料を作成、配布

③地域と繋がる

地域の介護事業に講師として参加

10月 地域介護講座(南種子町)

2月 介護予防体操(南種子町)

3月 介護指導教室(中種子町)

【実績】

| 総件数 |      | 利用者数 |      |
|-----|------|------|------|
|     | 件数   | 中種子町 | 南種子町 |
| 4月  | 179  | 29   | 16   |
| 5月  | 180  | 30   | 16   |
| 6月  | 200  | 31   | 16   |
| 7月  | 182  | 30   | 19   |
| 8月  | 176  | 30   | 18   |
| 9月  | 207  | 33   | 16   |
| 10月 | 203  | 33   | 16   |
| 11月 | 183  | 33   | 16   |
| 12月 | 172  | 30   | 15   |
| 1月  | 188  | 27   | 15   |
| 2月  | 188  | 30   | 17   |
| 3月  | 228  | 34   | 16   |
| 合計  | 2286 | 370  | 196  |

### 【目標・実績の振り返り】

2021年12月から田上診療所訪問リハビリテーションが発足され、多くの地域住民の方に知ってもらえる1年間になったと思います。また、訪問リハビリテーションだけではなく、介護事業にも携わることができました。今後も地域のために、様々な活動をしていきたいと考えています。

### 【令和5年度 年間目標】

多面的な働きかけで自立支援を促し、能力を最大限に引き出すセラピストになる

#### I 能力を最大限に引き出す

- ・統一した評価に加えて、状態併せた個別の評価を行い、個別評価の実施回数を記録、次年度の共通評価として検討資料にする

#### II 小児の訪問リハビリテーションの土台作り

- ・必要備品をそろえつつ、標準評価を作成・導入の検討

#### III 多面的な働きかけ

- ・他職種、他事業所との情報共有、地域という枠組みで自立支援

#### IV 種子島医療センター訪問リハビリテーションと共通項目

- ・目標達成での終了者を増やす

- ・月1回勉強会開催

- ・介護予防教室の開催

- ・リスクマネジメント、関洗濯策、虐待に関する研修会を実施、参加

- ・BCP(感染・災害)の作成

- ・記録、書類の適切な管理

# 訪問看護ステーション 野の花

管理者 榎本 親子

【令和4年度職員】(令和5年3月31日付)

代表者／田上寛容

管理者／榎本親子

訪問看護師／西川秋代、副島悠子

理学療法士／大津留麻子 作業療法士／濱添信人



【令和4年度 野の花年間目標】

1. 利用者が安心できる安全なサービス提供ができる。

- ①キャンディリンクの履修率を昨年よりあげる。
- ②研修会への参加、勉強会の実施により看護の質の向上に努める。
- ③感染対策を徹底しながら訪問業務を継続できるよう業務継続計画を整える。
- ④利用者カンファレンスを充実させ、統一性のある看護が提供できる。

2. 活気ある職場を目指し、働きやすい職場環境を整える。

- ①看護部、リハビリが協働できる。
- ②個々の目標設定を明確にして支援する。
- ③計画的に年次休暇、リフレッシュ休暇が取得できる。

3. 事業所の運営に参加する。

- ①個々が、診療報酬改定、集団指導の内容を理解し、基準や要件を維持できるよう動くことができる。
- ②経営状況を把握し、業務改善の提案ができる場を作る。
- ③設備、備品の管理体制を整備する。

【評価】

運営会にスタッフにも参加してもらうことで、事業所運営について個々の意識に変化がみられた。また必要のある研修への参加を希望する声も聞かれた。利用者カンファレンスに医師が参加してくれるようになったことで情報の共有が図れ、利用者には有効に働いていると考える。業務継続計画は、新型コロナ感染症を経験したことを活かし見直しをしていきたい。全体の達成率70%。

【実績】

登録者数:58名(令和4年3月31日現在)

訪問件数:2,231件(令和4年度延べ件数)

**訪問看護ステーション 野の花 看護師 副島 悠子**

令和5年元旦からお世話になっています。母と兄がお世話になった訪問看護に従事したいという思いがあり、年齢的にも最後のチャンスだと思い入職しました。子育てのため10年以上看護職を離れていたこともあり自信がありませんでしたが、理事長先生をはじめ20年以上看護師スキルのある先輩方に、優しく御指導、御助言をいただきながら頑張っています。私自身が訪問看護を利用して感じた、住み慣れた在宅生活での安心・安全を提供できるよう日々研鑽を重ねていきたいと思っています。

# 訪問リハビリテーション事業所 種子島医療センター 訪問リハビリテーション

リハビリテーション室 副主任 理学療法士 田島 拓実

## 【令和4年度職員】(令和5年3月31日付)

リハビリテーション室

副主任 理学療法士 田島拓実

リハビリテーション室

理学療法士 原田寛司



## 【令和4年度 年間目標】

効果的な連携協働を実践できる事業所

## 【活動】

### ①リハビリテーション会議で使用する評価シートを確立する

- ・ADL、IADの評価シートを用いていくことになる。

### ②連携しやすい関係網の構築。

- ・利用者宅へ訪問リハビリセラピストの顔写真を掲示する。
- ・各事業所を訪問し、顔見知りの関係性を構築した。

### ③連携方法を確立する。

- ・訪問介護職員と情報共有目的での連携ノートを導入した。

### ④地域貢献活動

- ・3月 介護指導教室(地域住民7名参加)

## 【実績】

| 利用者数 |      | 総件数 |      |
|------|------|-----|------|
|      | 西之表市 |     | 件数   |
| 4月   | 31   | 4月  | 109  |
| 5月   | 31   | 5月  | 117  |
| 6月   | 30   | 6月  | 124  |
| 7月   | 31   | 7月  | 123  |
| 8月   | 31   | 8月  | 69   |
| 9月   | 32   | 9月  | 110  |
| 10月  | 31   | 10月 | 126  |
| 11月  | 30   | 11月 | 135  |
| 12月  | 31   | 12月 | 128  |
| 1月   | 31   | 1月  | 128  |
| 2月   | 31   | 2月  | 120  |
| 3月   | 31   | 3月  | 115  |
| 合計   | 371  | 合計  | 1404 |

## 【目標・実績の振り返り】

当事業所が開設し、約1年が経過致しましたが、従事するセラピストの顔を知られていないことがありますので、各サービス事業所へ訪問させていただき、連携をとりやすい関係性の構築を図り、目標達成に向け、取り組んでおりました。連携協働という面では、リハビリテーション会議に利用者様・家族様が参加されるのですが、介護支援専門員の皆様も参加していただけたことがあり、会議で話し合った内容が、実際の生活に移行しやすい面もありましたので、目標達成にも寄与したものと思われます。介護指導教室では、参加された地域住民の方々から好評の声をいただき、令和5年度にも継続して行っていく予定です。

## 【令和5年度 年間目標】

地域にとって頼られるセラピストになる

### I 利用者・家族から頼られるための行動計画

- ・事業所内での自己研鑽の発信、カンファレンス
- ・数値化できる効果検証を行う、利用者の目標達成を目指す

### II 他職種から頼られる行動計画

- ・訪問リハビリへの繋げ方を発信する
- ・利用している介護事業所への情報提供を行う
- ・リハビリテーション会議で数値化した効果検証を発信する
- ・連携ノートの活用、カンファレンスの実施

### III 地域から頼られる行動計画

- ・介護指導教室の開催、介護予防教室の開催

### IV 田上診療所訪問リハビリテーションと共通項目

- ・目標達成での終了者を増やす
- ・月1回勉強会開催
- ・介護予防教室の開催
- ・リスクマネジメント、関洗濯策、虐待に関する研修会を実施、参加
- ・BCP(感染・災害)の作成
- ・記録、書類の適切な管理

# 介護老人保健施設 わらび苑

施設長 医師 松本 松昱

私がわらび苑に着任して1年が過ぎました。新型コロナ対策に追われた1年でしたが、職員が一丸となって対策を講じた結果、最小限の被害で収束したと自負しております。入所者への面会制限も緩和しており、やっと日常が近づいてきたと感動しております。

しかし、個人的な意見としては、この新型感染症により、以前のような生活様式は戻らないと考えております。具体的には、基本的な感染対策の継続は一生続けるべきと思っております。

私達はエッセンシャルワーカーとしての自覚を持ち、どのような感染症の流行下にあっても、入所者への感染伝播を防ぐことを念頭に生活していくかなければなりません。これらを踏まえた、当苑の目標としては、感染対策の高い意識を維持しつつ、可能な限り元々の皆さんのが安心して暮らせる環境づくりを掲げたいと思います。

ところで最近になり、介護師の入浴介助を手伝わせてもらっています。施設長とふんぞり返るのではなく、現場がどのような仕事をしていて、どのような課題に直面しているかは、現場に足を運ばなくては知ることはできません。熱風の中、やさしく丁寧に入所者の着脱衣と洗髪洗体をする職員には、感心しています。特に、コロナ対策をしながらの入浴介助は、精神的にもかなりストレスがあったと推察できます。これからも、入所者だけではなく、職員の役にも立てるような施設長を目指す所存です。

最近、学会で同門の先生方と話す機会がありました。

「君は今何をしているのかね？」と尋ねられたので、「日本一、入浴介助の上手な医師を目指しております。」と胸を張って答えました。

医は仁術なり。置かれた場所で咲きなさい。これらを体現していきたいと思います。

# 院内保育所

主任 大木 鈴香

【令和4年度職員】(令和5年3月31日付)

主任／大木鈴香

新原祐子、上妻明香、中村智美

「保育所に入職して」

上妻明香

保育所で働き始めて1年半が経ちました。

他園との違いは、「夜勤」があることです。お昼寝とはまた違う“緊張感・心配”があります。夜勤初日、私とでも安心して入眠することができるのか、夜泣きはしないだろうかなど心配がありましたが、その気持ちが子どもに伝わらないように、夕食・シャワー・玩具などで遊んで、寝る時子どもの方から「寝んね」と手を取ってくれて布団に入り、トントンで入眠してくれて、安心と同時に嬉しくなりました。

子どもとの信頼関係を築きながら、子どもの「癒やしの力」をいつも以上に感じました。

日々子どもと触れ合う中で“笑顔”をたくさん引き出していく保育をしていきお母さんたちが安心して保育所にいただけて、仕事ができる場所にしていきたいと思います。







輪馬

クリスマス

*Merry Christmas*



お正月





バレンタイン



ひな祭り

